

理想を求め、風が吹く

本田中学校 三年 久西 夏実

書名「風に恋う」
著者「額賀 滯」

「僕は死ぬとき、今日のことを思い出したい。」

この言葉は、全日本大会での演奏後、茶園基がコーチの瑛太郎に向けて放った一言だ。この言葉を見たとき、なぜ基はそう言ったのか私には分からなかった。今日のことなんて、死ぬ時にはきっと忘れていくし、生きていけば今日よりも大切な日はたくさんあるはずだ。それでも今日のことを思い出したいと考えるのは、今まで必死に努力してきたからだろうか。それとも良い結果を得ることができたからだろうか。

私は今まで約三年間吹奏楽部に所属し、その内の一年間は部長として楽器に触れてきた。そんな私でも、この作品を読んだことで新しく学んだことが数え切れないほどたくさんあった。特に、部長というものに求められることや部活動の存在意義、部活動を通して学ぶ人生の歩み方については強く感銘を受け、なぜ今までこんな風にやってこなかったのかと疑問に思うほど心に刺さった。

私はこの作品を通して多くの疑問が浮かんだ。中でも深く考えた疑問が二つある。

「部長」とは何をするか。そう聞かれたら、私は「部活のリーダーとして部員をまとめ、周りよりも上手に演奏する」と答えるだろう。だが、部長に求められる真の目的は、まとめるだけか上手に演奏するだけか、そこではない。自分の理想を追いかけて一生懸命になれるかどうかなのだ。部長のように人から必要とされる人は、能力が高い人ではなく、理想のためにどこまでも自分と向き合い努力ができる人であると同時に、その様な人は自然と周りに必要とされるのだ。そのことに気付かされ、私もそんな部長にならなければならぬと強く決意することができた。

「部活動」はどうして行うのか。私が所属している吹奏楽部で考えてみるとしよう。一番身近で簡単な理由としては、コンクールで良い成績を取るためだろう。もちろんこれが間違っている訳ではないが、もっと大事なことがある。それは作中の次の言葉だ。

「ポイント稼ぎとか減点を避けるとかじゃなくて、審査員を含めた観客をどれだけ楽しませるかだ。」
審査員も人間だ。観客と同じように楽しませられて、心を揺らすことがで

ければ、それが本当の成功であり、部活をやっている良かったと思えるのだ。また、以前中学最後のコンクールで、外部指導の先生に「自分達の音楽をどうしたいか、どうすれば最後まで聴きたいと思ってもらえるかを考えて演奏しなさい。」と言われたのを思い出した。観客の心を揺らすということは、一番大切なことでありながら一番難しいことだと、今更ながらとても納得した。

結局、どうして部活動は行うのかという疑問の答えは、部活動の種類やその人の考えによって様々である。でも私は、その理由の一つに、部活動を通して人生の歩み方を学ぶことができるから、という考えがあると思う。作中に、コーチの瑛太郎が西関東大会の本番前に生徒に言った素晴らしい言葉がある。

「今日という時間がどれだけいいものだったかを決めるのは、明日以降の自分だ。だから、今日のためだけに生きるなよ。明日の自分のために生きろよ。」
こんな考え方は初めてだった。今までの私は、とにかく今日をどうやって過ごすか、今この瞬間をどうやって自分の力にするか、と考えていた。でも、この作品のお陰で、今日頑張ったことは明日以降の自分の糧になることや、今日の価値は明日以降の自分が決め、明日以降の価値は今日の自分次第で変わるということを学ぶことができた。

中学三年生の一年間は、どこを切り取っても貴重で大切なものだ。それはなぜか。中学生最後の年だからだろうか。いや、違う。高校受験という大きな壁の前に、自分の理想に手が届くよう追い続けることができるからだ。私はこの作品を通して、理想を追い求めて我武者羅になりながら走ることに美しさや、これ以上ないという程思いっきり悩んで一歩ずつ前に進んでいくことの輝きに強く心打たれた。これからは、私自身の理想を追いかけて一生懸命になることだ。このくらい覚悟ができないと、私は中学三年生失格になってしまうだろう。

「僕は死ぬとき、今日のことを思い出したい。」
なぜそう言ったのか、ではない。そう言えるようにこれから生きていかなければならないのだ。私の毎日の毎時間をそう言えるようにするため、理想という名の風が吹く瞬間をしっかりと愛していきたい。そんな日々が、私の理想だ。
(原文ママ)

なお、東京都小学校読書感想文コンクールにおいて、梅田小学校 高橋暖さんが特選を受賞し、東柴又小学校 関野遥都さんと鎌倉小学校 村越建太さんが入選しました。高橋暖さんは都代表として青少年読書感想文全国コンクールに選出されました。

